柿崎区地域協議会だより

発行：柿崎区地域協議会　事務局：柿崎区総合事務所　総務・地域振興グループ　℡025-536-2211

頸北地区地域協議会委員合同研修会を実施

柿崎・大潟・頸城・吉川の頸北4区の地域協議会では、平成26年度から合同研修会を実施しています。今回は、市で協議・検討されている「地域自治推進プロジェクト」をテーマに、参加した27人の委員がグループ討議や、市との意見交換を行いました。

なお、市からは総合政策部長、地域政策課長をはじめ、合わせて5人の職員から出席いただき、プロジェクトの説明と、委員からの質疑に応答いただきました。

地域自治推進プロジェクトは、地域のことは地域で決めて、地域で実行する地域自治の仕組みの強化を図ることが目的です。現在、①～⑤の5項目に分けて方策案が示され、議論されています。

① 地域自治区の区域
② 地域協議会
③ 地域の団体
④ 地域自治の活動を活性化するための財源支援の仕組み
⑤ 総合事務所及びまちづくりセンター

グループ討議後の意見発表では委員から様々な意見が出されました。その一部を紹介します。

【意見】

○ 地域協議会の役割をきちんと定義して、28区の市民全体がこれなら「やりがい」があるという組織にしてほしい。

○ 委員の任期は、2期までと制限することはおかしい。

○ まちづくり振興会等がしっかりと動けるような体制を市にはサポートしてもらいたい。そのためには人的支援、資金支援、アドバイス等が必要。

○ 地域独自の予算事業において似たような内容の事業に取り組む場合、区ごとに異なる対応が出ないようにしてほしい。

○ 総合事務所等のあり方については、柔軟に対応してもらいたいので、今後の組織体制に期待している。

○ 各地域協議会等で、いつ、どんな意見が出されたのか、共有できるようにしてほしい。

【グループ討議後、班ごとの意見発表】

地域自治の仕組みが今よりも強化されることで、より良い市民生活を送ることができることに期待し、柿崎区地域協議会は、今後も市へ意見を届けていきます。

柿崎区地域協議会　3 つの自主的審議事項「米山薬師を守る会」「スポ×まちプロジェクト」「ネットワーク柿崎」の取組状況

米山の環境維持管理業務に参加して

米山薬師を守る会　委員　佐藤　まゆみ

周知のとおり、柿崎山岳会は今年度末をもって解散します。「米山薬師を守る会」では、これまで山岳会が担ってきた米山の環境維持管理業務について、今後どのような形で引き継いでいけば良いか模索を続けています。

春には状況把握のため、「観音起こし作業」（市からの委託業務の一つ）と「山頂トイレ組み立て作業」（山頂避難小屋連絡協議会からの委託業務の一つ）に参加させてもらいました。

4月の「観音起こし作業」では、登山道に覆い被さる倒木や枝をチェーンソーで伐採し、片付けながら現場に向かいました。

三十三観音の現場では、土台の石を一つ一つ平らに整え、雪で倒れた石仏を2、3人で抱きかかえながら積み直しました。石仏の数とその重さには驚くばかりでしたが、山岳会の皆さんは手際よく作業を進めていました。

5月の「山頂トイレ組み立て作業」には、市の職員や柿崎観光協会、委託業者、柏崎山岳会等の参加もありました。山岳会のみなさんは他の参加者と協力をしながら、大変てきぱきと活動をしていました。作業の一つ一つに確かなノウハウをもち、感心するばかりでした。

山岳会の皆さんは、個人でも日々米山に登り、登山道の点検や整備、避難小屋・トイレの清掃等を行っています。山開きや学校登山等への協力もしています。山岳会の業務を引き継ぐことが容易ではないことを肌で感じました。

そんな中、山岳会解散の新聞記事をメッセージを受け取りました。これまでの山岳会の尽力に深く感謝しつつ、読んだという市内の登山愛好者から「自分にも手伝えることはないか」という内容です。

これらの頼もしい声をすくい上げながら、柿崎山岳会の思いと技術を引き継ぐ新たなシステムの準備を進めなければと考えています。

ネットワーク柿崎の取り組みと今後の展望

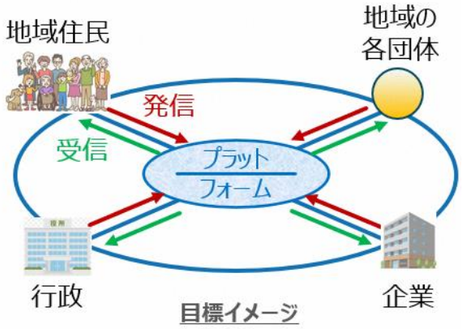
ネットワーク柿崎　委員長　佐藤　達弥

ネットワーク柿崎は、住民、各団体・企業、行政が協力し、地域の情報を能動的に受発信できる新たなネットワークの構築（図1）を目指して、昨年10月に地域協議会で自主的審議事項の一つとして発足した検討委員会です。地域の活性化につながる環境が整えられればとの想いを持って、活動を段階的に進めています（図2）。

現在はＳＴＥＰ1のフェーズで、地域の情報発信や既存の取り組みを収集・分析し、課題やニーズを整理しています。柿崎観光協会やまちづくり振興会が各ホームページに掲載している内容や、コネクト柿崎が運営するウェブサイトの勉強会を行い、いずれも目的に応じた秀逸な情報発信ツールであることを知ることができました。

また、近隣地域の取り組みとして頸城区の「ジモ活 base」を視察させてもらいました。ジモ活 base は、ホームページやＳＮＳを活用し、地域のイベントや話題を積極的に発信するモデルであり、その運営方法や仕組みづくりとても参考になりました。

今後ＳＴＥＰ2のフェーズでは、ＳＴＥＰ1で得た情報や学びを基に、具体的な施策の検討を進めていきます。住民が積極的に関与し、継続的に利用できる情報発信の仕組みを作るには、運営体制を考える必要があります。柿崎区に適した持続可能な地域ネットワークの運営モデルとそれをどう構築していくのが最適か、多様な視点を取り入れながら、本検討委員会でしっかり協議していきたいと考えています。



【図1　地域情報を受発信できるネットワークイメージ】

【図2　新たなネットワークづくりに向けた検討手順】

スポ×まちプロジェクト

委員長　佐藤　昌貴

今回は、令和7年5月までの当プロジェクトの進捗状況と今後のスケジュールについてお知らせします。

当委員会では、スポーツを通じた経済波及効果を生む活動について、調査・研究・協議を行っていますが、令和7年度は解決方法検討の年と位置付け、まず柿崎区内のスポーツ団体が抱えている運営・イベント開催に関する課題を把握するため、5月28日に意見交換会を開催しました。

意見交換会では、たくさんの課題・アイデア・ご意見をお聞きすることができました。

今後は、この意見交換会の内容を踏まえて、課題解決方法の検討を行っていく予定です。

【スポーツ団体と意見交換】

【観音起こし作業】

頸北地区地域協議会委員合同研修会に参加して

今年は6月14日に柿崎区で開催されました。研修として、上越市総合政策部地域政策課の白倉副課長より地域自治推進プロジェクトの取組について、方策案の説明がありました。

その後5班に分かれて各検討項目について討論がなされました。

各委員が現状に対する課題や、地域協議会を中心とした、色々な取組の「かたち」作りについて、限られた時間の中、活発な意見交換ができました。

ただ私としてはまだ現状の具体的な仕組みが良く分からない所があり、今後さらに勉強しなくてはいけないと考えさせられました。

その後の情報交換会では、他の地域の方々と色々なお話ができて大変良かったです。

最後に参加人数が昨年度よりも少し減少してしまったのは、残念でした。

来年度は、より多くの方々と会えるのを楽しみにしています。

（金子　豊彦）

【5 班に分かれてのグループ討議】

柿崎区地域協議会の主なうごき（令和 7 年 4 月～令和 7 年 7 月）

開催月日	会議名	開催月日	会議名
4 月　1 日	第 6 回ネットワーク柿崎	6 月　4 日	第 8 回ネットワーク柿崎
4 月　8 日	第 6 回米山薬師を守る会	6 月 10 日	第 7 回スポ×まちプロジェクト
4 月 15 日	第 1 回地域協議会	6 月 14 日	頸北地区地域協議会委員合同研修会
4 月 15 日	第 1 回地域協議会だより編集委員会	6 月 17 日	第 3 回地域協議会
4 月 15 日	第 7 回ネットワーク柿崎	6 月 17 日	第 9 回ネットワーク柿崎
4 月 30 日	第 5 回スポ×まちプロジェクト	6 月 24 日	第 7 回米山薬師を守る会
5 月 13 日	第 2 回地域協議会だより編集委員会	6 月 26 日	第 3 回地域協議会だより編集委員会
5 月 20 日	第 2 回地域協議会	7 月　1 日	子育て中のお母さんグループとの懇談会
5 月 28 日	スポーツ団体との意見交換会	7 月 15 日	第 4 回地域協議会

【編集後記】

近年続いている猛暑は今年も継続しそうです。6 月中旬に梅雨入りしたにもかかわらず 35 度を超える猛暑日もありました。私が子どもの頃は 30 度を超えるとかなり暑いと感じていました。今では日差しもかなり強く日焼けの度合いも昔とは比べ物になりません。

サングラスをかける習慣もあまりなかったのですが、ファッションとしてではなく、目の保護として購入しました。今年の夏も暑くなりそうです。様々な地域課題がありますが、体調に気を付けながら安心安全に暮らせる地域に向けて皆で頑張って参りましょう。

（小山　慶）

編集委員長　佐藤まゆみ
編集委員　石田一久　小出祥世
小山　慶　佐藤昌貴
滝澤正芳　蓑輪和彦